

## プログラムの概要

<b>団体名称</b>	代表団体: 一般社団法人コペルニク・ジャパン 協力団体:
<b>実施規模</b>	□地域限定のプログラム: 1,000 万円未満/3 年以内に完了するもの ■全国展開のプログラム: 1,500 万円未満/3 年以内に完了するもの
<b>実施期間</b>	2021 年 1 月 ~ 2022 年 11 月 (1 年 11 ヶ月間)
<b>実施場所</b>	東京およびオンライン
<b>タイトル</b>	途上国開発支援活動の有効性と効率性の向上およびインパクト拡大のための実証実験手法の普及プログラム
<b>目的</b>	日本の開発途上国支援団体(NGO、NPO 等)が自らの活動の有効性を事前に検証し、より効果的な活動を設計した上で、活動の成果をデータに基づき比較検証する実践的手法を普及することで、関係団体の途上国における活動の効率性、を向上するとともに、成果の対外的発信力を高め、最終的には開発途上国の課題の解決により大きなインパクトをもたらすことを目的とする。 また、一連のワークショップでの参加者同士の交流や、弊団体が本プログラムに関連して立ち上げるオンラインコミュニティでの情報共有、そして弊社主催の年次フォーラムへの参加機会の提供などを通じた日本で国際開発に携わる関係者の間で、実証実験の活用促進や、実施事例の共有に関するネットワーク構築も目指す。
<b>概要</b>	日本の NGO や NPO の職員を対象に、実証実験の概要や効果について共有するオンライン説明会を実施し、ワークショップへの参加者を募集する。参加者(15 名程度)を選定した上で、計 4 回のワークショップを実施し、弊団体のインドネシアでの事例紹介、実証実験や分析手法の知見を有する講師による講義、実証実験の計画策定、実際のケースを用いた、グループディスカッションなどを通じ、実証実験の手法を基礎から実践まで集中的に習得するとともに、各団体のプロジェクトでの実証実験計画案が策定される。また、同じような目的や課題を抱える参加者相互のコミュニケーションを促進するため、ワークショップ後も情報共有や問題解決のための多くの方に参加頂くことを目的に、一連のプログラムを計 2 回実施し、1 年次で得られた成果や知見を 2 年次に活用する。
<b>受講対象者及び定員</b>	NGO、NPO 等の職員 30 名
<b>到達目標</b>	1. 日本の NGO や NPO 団体等に所属するプログラム参加者が、実証実験の手法に関する知識・技術を習得する。 2. 約 2 年かけてプログラムを 2 回実施することで、より多くの参加者に実証実験について学ぶ機会を提供するとともに、1 年次の参加者の団体事例を 2 年次のカリキュラムに反映することで、参加者の所属団体の活動の参考となるような多くの事例の共有を促す。
<b>到達目標を測る指標</b>	1. ワークショップ受講前と受講後に実証実験に関する知識についてアンケートを行い、受講後の達成度の平均が 80%を越える。 2. 1 年次、2 年次それぞれの 4 回のワークショップ実施後に、各 15 名(合計 30 名)の参加者各自のプロジェクトの実証実験のフレームワークが作成される。